

基本構想

(平成23(2011)年度～平成30(2018)年度)

- 1 はじめに
- 2 配慮すべき社会情勢
- 3 望ましいまちの姿
- 4 まちづくりの目標

1

はじめに

(1) 総合計画策定の趣旨

本市では、平成13(2001)年度から平成22(2010)年度までを計画期間とする第4次所沢市総合計画に掲げた「ゆとり・うるおい・活力ある生活文化都市」の実現をめざし、計画的にまちづくりを進めてきました。

この間、経済状況をはじめとする社会変化のスピードは日々増す一方で、行政に課せられる使命は質・量ともに拡大傾向にあり、より一層の地方分権の推進と自治体としての自立性、持続性が求められるなど、本市は大きな転換期を迎えています。また、少子高齢化や低成長時代[※]への移行などが、自治体経営[※]における前提となったことも特筆すべきことです。

今後、人口構成や財政状況の変化などによるさまざまな困難が想定される第5次所沢市総合計画の計画期間の中で、市民が暮らしやすい、住んでいることを誇りに思えるまちを実現するためには、自治体としての自立をさらに進めるとともに、住民自治の推進など、市民が持つ力を発揮できる環境を整備することが大変重要となります。

本市では、こうした状況を市民や地域とともにめざすべきまちの姿を共有し、その実現に向けて取り組む大きな機会と捉えます。そのため、市民とともに第5次所沢市総合計画を策定し、実現をめざすものです。



※低成長時代…経済成長が低調な時代のこと。ここでは平成3年にバブルが崩壊し、安定成長の時代が終わったことをさす。

※自治体経営…自治体が自らに必要なものは何かを考え、住民とともに地域にふさわしい政策や施策を新しく作り出していく等、民間企業などの発想や手法を取り入れながら、限られた資源を有効に活用して行政を行うこと。

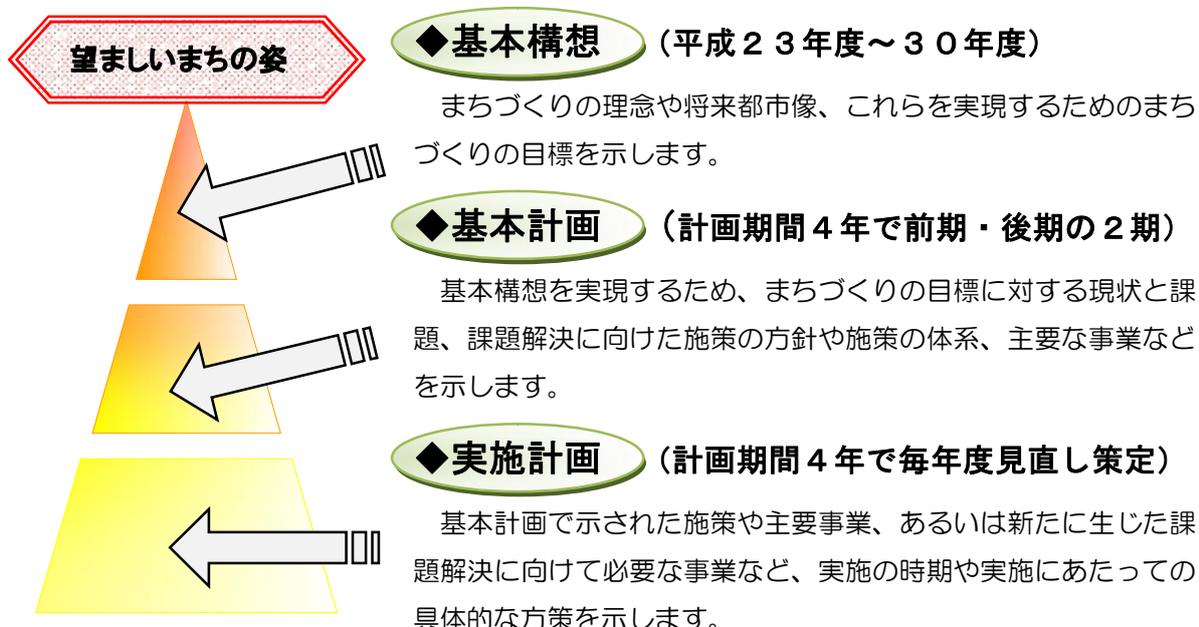
(2) 計画の期間と構成

総合計画の期間については、その時々¹の社会情勢や策定時の政策判断などにより、見直しを行ってきました。第4次所沢市総合計画では、計画期間を10年としていました。

第5次所沢市総合計画については、計画期間を平成23(2011)年度から平成30(2018)年度としています。急激な社会情勢の変化に対応しやすくし、あわせて4年の市長任期に沿ったものとするために、8年間の計画としました。

また、本市の総合計画は次の3層構造となっており、基本構想を8年間、基本計画を前・後期それぞれ4年間、実施計画を4年間で毎年更新とし、これらが連動しながら、それぞれの役割を担うものとしています。

《第5次所沢市総合計画の3層構造》



平成23(2011)年度

平成30(2018)年度

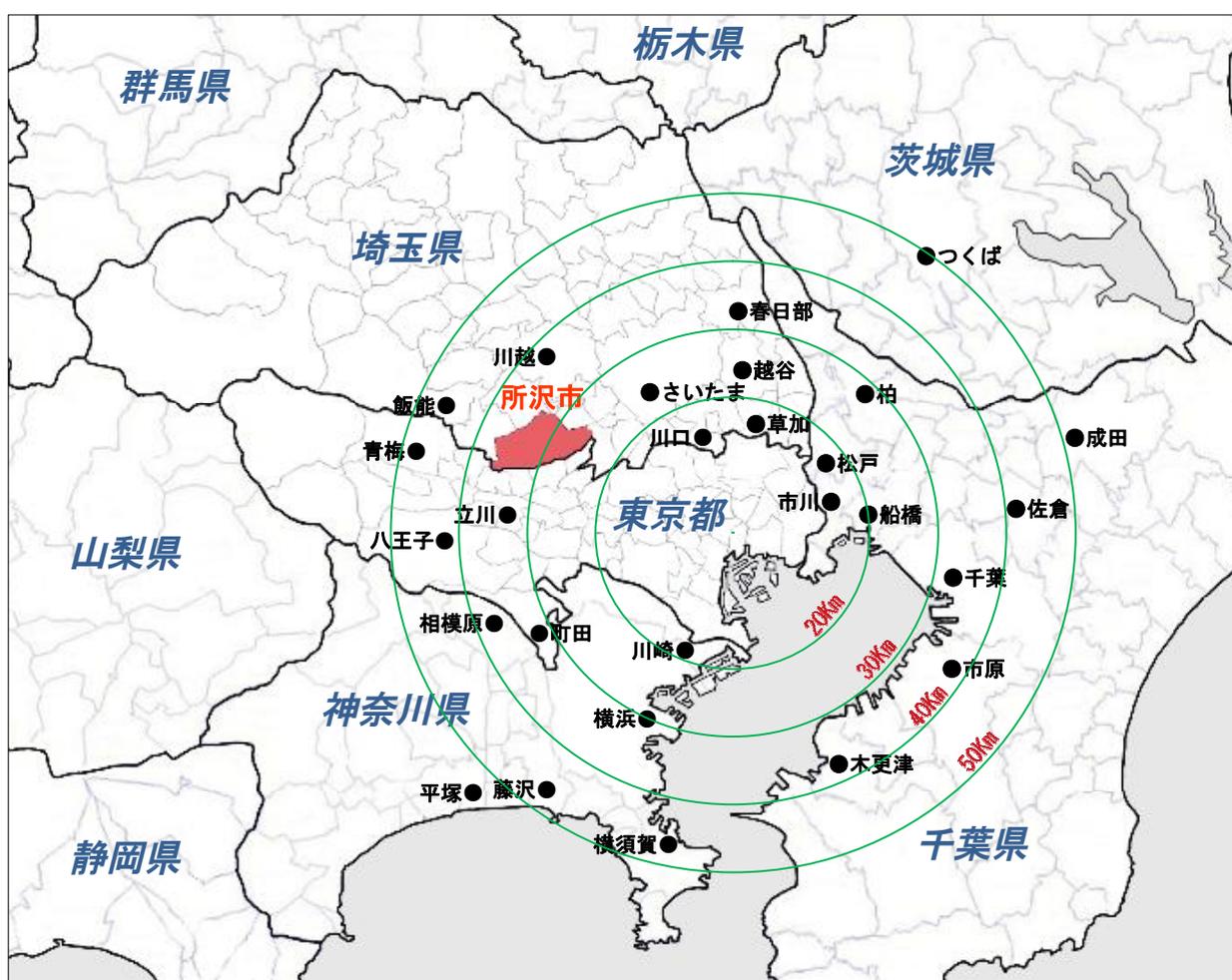


(3) 市の概要

① 位置・地勢

本市は、都心から30kmの首都圏にあり、武蔵野台地のほぼ中央、多摩北部に接する埼玉県南西部に位置しています。

東西15.6km、南北9.1km、周囲53.25km、総面積71.99㎢に及ぶ市域は、西から東に向かって狭山湖を中心とした狭山丘陵、武蔵野台地、柳瀬川下流域周辺の沖積低地など、起伏に富んだ多様な地形が見られ、その地形に沿って狭山丘陵付近に源を発する柳瀬川、東川、砂川堀や不老川が流れています。



所沢市の位置・標高

◆位置	◆標高
東端 東経 139 度 33 分	15.2~170.0m
西端 東経 139 度 22 分	(平均 80m)
北端 北緯 35 度 50 分	
南端 北緯 35 度 45 分	

② 沿革

本市は、今から約1万数千年前の旧石器時代の砂川石器群が発見されるなど、太古の昔から人々が住んでいた歴史あるまちです。

鎌倉時代末期には、新田義貞※の軍勢と鎌倉幕府軍による小手指ヶ原の合戦があり、江戸時代には、鎌倉街道をはじめとする街道筋の宿場として発達し、また、柳沢吉保によって三富新田が開拓されました。さらに、明治時代に入ると、木綿を中心とした織物生産が盛んとなり、明治44(1911)年にはわが国最初の飛行場ができるなどの歴史があります。

昭和18(1943)年に所沢町と近隣の松井、富岡、小手指、山口、吾妻の5村が合併し、昭和25(1950)年に埼玉県で8番目に市制を施行しました。昭和30(1955)年には、三ヶ島村、柳瀬村と合併して現在の市域となりました。

市制施行時は、人口4万2千人余りで、柳瀬川、東川沿いには水田が、台地には茶園、畑、そして雑木林の広がる農業中心のまちでした。

その後、昭和34(1959)年に新所沢地区に住宅団地が建設されたのを機に、都心への交通の利便性などから市内各地で大規模な宅地開発が行われ、急激な人口増加の時代を迎え、首都圏有数の住宅都市へと変貌しました。近年、この勢いは鈍化したものの、平成19(2007)年には人口が34万人に達しています。

市の中央部に位置する米軍所沢通信基地は、長年にわたる返還運動が実を結び、これまでにその約7割が返還され、わが国の航空発祥の地を記念した航空記念公園や市民文化センターをはじめ、各種の文教施設や福祉医療施設、官公署などが整備されています。しかし、以後の返還は進んでおらず、早期全面返還の実現が課題となっています。

県内はもとより、首都圏でも有数の自然環境と人口規模を有する本市は、市制施行60周年、さらには航空発祥100周年を迎え、今後も魅力にあふれた県南西部の中核的な都市として、一層発展していく可能性を持っています。



※新田義貞…鎌倉時代末から南北朝時代にかけて活躍した武将。上野国(こうづけのくに)(群馬県)の人。元弘3(1333)年5月に挙兵し、鎌倉幕府を倒した。小手指ヶ原古戦場(北野)はこのとき合戦の舞台となった場所で、このほか、所沢市内には誓詞橋(同)、白旗塚(同)、勢揃橋(久米)、將軍塚(松が丘)など、新田義貞にまつわる史跡が多く残っている。